

会長挨拶

横山利彦（日本放射光学会長）



新年明けましておめでとうございます。

2021年10月1日より2年間、日本放射光学会長を務めることとなり、早くも1年が過ぎてしまいました。この原稿を書いている今は2022年11月19日ですが、新型コロナウイルス感染症国内発生第8波が襲って来そうな状況です。全国旅行支援も始まっており、新年1月7～9日に立命館大学で現地開催される第36回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムが無事行えることを祈っている現況です。去る11月10～12日の間は、東北大学で Asia-Oceania Conference on Synchrotron Radiation Instrumentation 2022 (AO-SRI2022) がオンサイト/オンライン・ハイブリッド開催され大盛況でした。東北大学や Asia-Oceania Forum for Synchrotron Radiation Research (AOF SRR) 関係の先生方には心より感謝申し上げる次第です。会期中には青葉山キャンパスの次世代放射光施設 NanoTerasu の見学会も実施され、来年度のファーストビームに向けた建設が着々と進んでいることを大変うれしく思いました。

この1年は会長としてほとんどお役に立ててないことを痛感し、まずは会員の皆様にはお詫びする次第です。朝倉会長からの引継ぎで、まずはデータ構造化諮問委員会（委員長は朝倉清高前会長）を立ち上げ、多くの会員・非会員の皆様にご協力いただきながら、データ構造化に関する基本的な提言を計測分野全体にわたってまとめたものと計測分野ごとのものをご提示しようとしているところです。また、今年度より始まった高良・佐々木賞の選考・授賞も確定し、今年度は、奨励賞・放射光科学賞とも多くの推薦をいただき、功労報賞を加えた4賞とも素晴らしい業績を挙げられた方々に授賞でき、ほっとしているところです。2022年12月には日本学術会議が公募する「未来の学術振興構想」に応募予定で、十分時間をかけたご相談は難しいと思いますが、本稿が発刊されたときには学会としての提言を提出いたしましたことをご報告していることを期待しています。一方、放射光60周年記念事業も、やや準備が遅れ気味かもしれませんが、2023年10月に岡崎コンファレンスセンターで開催することが決まりました。ここでは、1960年代以降の我が国のシンクロトロン放射光の歴史資料を後に残る形で保存していきたいと考えています。また、2020年に開催予定で延期になっていた AOF Synchrotron Radiation School も漸く2023年6月にタイで開催されることが決定し、学会としても渡航費援助を予定しており、学生さんはじめ多くの方の参加をお願いするところです。

放射光学会として取り組むべき課題は他にも多岐にわたると思いますが、引き続き以下の案件を推進していく所存です。

- 放射光研究技術に直接携わる人材育成に関する学会としての積極的協力、データサイエンスなど新たな分野における人材育成に関する協力
- 次世代放射光施設 NanoTerasu への放射光学会としての協力

- 放射光施設の需給バランスを考慮しながら国際競争力の維持・改善を目指した施設老朽化対策とアップグレードに関する国への提言
- 放射光科学のますますの広域化を目指した異種分野連携推進。特に量子ビーム関連学会との連携促進
- AOFSSRR 連携推進。日本の放射光コミュニティーの代表として、我が国のアジアオセアニア地区でのリーダーシップの堅持，AO-SRI 国際会議や AOF Synchrotron Radiation School への積極的協力
- COVID-19対策を考慮した年会・講習会等の在り方，その他，学会員の研究活動に資する学会運営・運用上の極め細やかな対応

放射光科学と放射光学会のさらなる発展に向けて，引き続き微力ながら少しでもお役に立てるよう，次期会長・幹事会にもご迷惑を最小限に抑えた円滑な引継ぎができるよう尽力したいと思いますので，皆様のご指導ご支援よろしくお願い申し上げます。